

「環境化学でオープンサイエンス」～あなたのデータを活用しませんか？～

開催日 : 6月7日(水) 18:45～20:45

世話人 : 上野(代表)、家田

概要 : 近年, 新たな研究の進め方や手法である“オープンサイエンス”の概念が, 世界的に急速な広がりを見せています¹⁾。第一線でご活躍の環境リスク研究者およびサイエンスライターをお招きしてご講演頂き, 環境化学会としての今後の“オープンサイエンス”への取り組みについて議論できればと考えています。

1)JST, 2017, 情報管理, 60, 143-; 2) 内閣府, 2015, 我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について

タイムスケジュール

18:45～(5分)

趣旨説明および演者紹介

18:50～(20分)

松尾 沙織 (サイエンスライター)

「オープンサイエンスが新しいソリューションをつくる～研究者のみなさんをお願いしたいこと～」

「環境化学のオープンサイエンス化に期待することを中等教育関係者のメッセージを交え、環境系ライターの立場で語ります。新しいソリューションは、市民が憧れる研究者(みなさん)次第かもしれません！」

19:10～(20分)

林 彬勅 氏 (産総研)

「オープンデータが拡げる可能性」

「オープンデータを活用した知的基盤構築はイノベーション創出を促す。従来では学会や論文などで多くのデータが発表されてきたが、転がっているこれらのオープンデータの多くは活用されていない現状にある。世の中に転がっているデータを集積・活用するシステム作りはイノベーション創出のための環境整備である。ここでは、オープンデータが広げる可能性についての討議に資するため、演者がオープンデータを利活用したシステム構築例を話題提供させていただく。」

19:30～(20分)

仲山 慶 (愛媛大)

「オープンデータは誰のため？」

「オープンデータは様々な分野で推進されていますが、研究成果のオープン化については、研究領域間でその進度は大きく異なります。環境化学分野はお世辞にも進んでいるとは言えない現状ですが、今後どうすべきかについて問題提起するために、他分野でのオープンデータの取り組み等を紹介するとともに、ChemTHEATRE構築の過程で我々が感じたことについてお話しさせていただきます。」

19:50～(30分)

総合討論

20:20

閉会

21:00～ 情報交換会 (静岡駅周辺)

演者紹介



松尾 沙織

1984 年 東京都武蔵野市生まれ。

2011 年の震災をきっかけに、働き方やファッションのあり方に疑問を持ち、当初働いていたアパレル企業を退社。そこで「ソーシャルデザイン」という言葉に出会い、NPO 法人グリーンズにてライターインターンと編集学校を卒業。現在はフリーランスとして、さまざまなメディアで持続可能な衣食住やまちづくりを紹介する記事を執筆したり、モデル、環境系 NGO 団体でプロボノとして活動。

<http://miraimedia.asahi.com/cafe/japanese-company/>

<http://greenz.jp/author/matsuosaori/>

http://alternas.jp/work/ethical_work/68509

<http://alternas.jp/joy/date/68652>



林 彬勲

1998 年 東京農工大学大学院物質生物工学博士後期課程修了・工学博士

1998 年 東京大学生産技術研究所 リサーチアソシエイト

2001 年 独立行政法人産業技術総合研究所 任期付招聘研究員

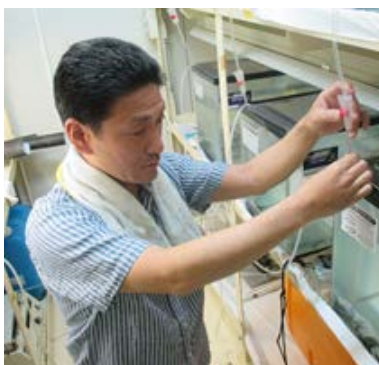
2004 年 独立行政法人産業技術総合研究所 研究チーム長

2008 年 独立行政法人産業技術総合研究所 主任研究員

2015 年 国立研究開発法人作業技術総合研究所 上級主任研究員

化学物質の便益と生態系影響を「生態リスク」として捉えて評価する手法を研究。化学物質生態リスク評価の簡便化、効率化、標準化、定型化を支援する汎用生態リスク評価管理ツール（AIST-MeRAM）を開発。

<https://meram.aist-riss.jp/>



仲山 慶

2003 年 九州大学大学院生物資源環境科学府修了・博士（農学）

2003 年 愛媛大学沿岸環境科学研究センター COE 研究員

2005 年 City University of Hong Kong（香港） リサーチフェロー

2006 年 愛媛大学沿岸環境科学研究センター 助手

2010 年 愛媛大学沿岸環境科学研究センター 講師

野生生物などを対象とした複合的な環境ストレスによる影響評価を研究。近年、化学物質のモニタリング情報を収録・閲覧できるプラットフォーム（ChemTHEATRE）を創出、モニタリング研究の社会への還元、とくに環境教育への寄与やオープンサイエンス化を目指している。

<http://chem-theatre.com/index.php>